



The Manbai
Journal
Vol.1

いちりゅうまんばいのたねプロジェクト2025

”一粒万倍の種”

耕作放棄地をよみがえらせる

ひと粒3万円の種がもたらす未来の可能性——

一粒万倍の種。それはただの作物を育てるためのものではありません。この種は、耕作放棄地を再生し、人と土地、地域をつなぐ未来そのものを象徴しています。手入れされず荒れた土地も、適切に手を加えれば新たな命を育む力を取り戻します。この種は、「地主」「生産者」「未来の農業従事者」そして「消費者」という4者をつなぎ、新たな循環を生み出すきっかけとなるプロジェクトです。この循環の中で、土地は再び命を宿し、地域には新たな活力が生まれ、農業の未来が育まれます。支援者に届けられる収穫物は、再生された土地の証であり、未来への希望そのものです。

「一粒の種が、万倍の実りを生む。」この未来を、皆さんと共に耕していきたいと思っています。

30,000YEN FOR THE FUTURE

30,000YEN FOR THE FUTURE



F a u n a B a l a n c e

一粒万倍の種プロジェクト

白井寛人

耕作放棄地～畑の様子

長い間放置されていたこの場所は、木のように成長した雑草と、想像以上に地中深くまで入り込んだ根に覆われていました。引き抜くだけでも一苦勞で、耕運機はもちろん、鍬もまったく歯が立たず、畑として使えるようになるまでにはかなりの手間と時間がかかりました。

さらにこの土地は、鹿やイノシシの被害が多発するエリア。電柵を設置したものの、植えた苗がすぐに鹿に食べられてしまう場面もありました。雑草の勢いも非常に強く、せっかく植えた苗が草に埋もれてしまい、育ちにくいなど、悩みの尽きない日々が続きました。

それでも、草刈り、土づくり、植え付け、そして見守る日々を重ね、ようやくたくさんのジャガイモを収穫することができました。一粒の種から始まった畑が、こうして実りを迎えたことに、心から感謝しています。



F a u n a B a l a n c e

一粒万倍の種プロジェクト

白井寛人

耕作放棄地～田んぼの様子

ありがたいことに、今回のご支援の一部を活用し、田んぼの区画も少し増やすことができました。これまでずっとやりたくても出来なかった『苗代（なわしろ）』づくりにも挑戦しました。昨年収穫した米の種籾（たねもみ）を、田んぼに作った畝に蒔いて育苗しました。が、残念ながら米の発芽よりも雑草の発芽のほうが早く、うまくいきませんでした。今回はあえなく失敗に終わりましたが、来年はこの失敗を活かして、もう少し工夫をして良い苗代を作りたいと思います。これまで挑戦したくても余裕がなく、なかなか手を出せなかった取り組みでしたが、ご支援のおかげで一歩踏み出すことができました。本当にありがとうございます。

広げた区画は、つい先日、仕入れた苗ではありますが、無事に田植えを終え、現在は成長を見守っているところです。

また一部の田んぼでは大豆の作付けも始めました。最初は水の管理が上手くいかず発芽率が下がってしまったため、再度植えなおすという試行錯誤を重ねている最中です。この大豆畑は、学生ボランティアの受け入れ場所として開放しており、若い世代が農業や里山保全に触れる貴重な場にもなっています。



F a u n a B a l a n c e

一粒万倍の種プロジェクト

白井 寛人

活動とご支援金の活用について

(2025年6月末時点)

■活動の進捗

- ・耕作放棄地の再生（畑）：約1反を整備し、現在は畑として使用中
- ・耕作放棄地の再生（田んぼ）：約1反を整備し、半分は米、半分は大豆を作付け
- ・獣害対策電柵：設置完了
- ・人材育成：アルバイト2名＋ボランティア・学生が定期的に参加中

■収支について

皆さまからのご支援金 82.6万円 は、以下のように活用させていただいております。

- ・資材費・農機燃料：約6万円
- ・種苗費：約2.5万円
- ・獣害対策（電気柵設置）：約11.5万円
- ・人材サポート（アルバイト）：約4万円 × 5ヵ月（計20万円）
- ・支援お礼品の送料・雑費：約2.5万円
- ・上地区地域活動への協賛金：5万円
- ・合計支出：47.5万円／残額：35.1万円

今後（7月以降）は、整備がまだ行き届いていない畑周囲の環境整備を進めつつ、引き続き人材サポートを継続。また、秋冬作付けの準備として、種苗費や資材費にも活用させていただく予定です。

一粒万倍の種プロジェクト



F a u n a B a l a n c e

一粒万倍の種プロジェクト

白井寛人